

県外先進地訪問報告

鹿児島県立開陽高等学校全日制

外国語科 亀園 知江美

1 はじめに

本校は全日制課程・定時制課程・通信制課程の3課程からなる単位制高校である。全日制課程では、外国語科目として英語・中国語・韓国語の授業を開講しており、生徒は自分の興味や進路に合わせて授業を選択することができる。現在、私は韓国語の授業を担当している。韓国語に関心の高い生徒も多く、上級クラスの授業では生徒同士で自分の考えを交えながら会話練習ができています。

しかし、私自身韓国語の授業経験が短く、どのように教えたなら効果的か、また生徒たちがこれまで学んできた英語に加えて新たな言語を学ぶ意義とは何か、と考える中で、外国語教育や国際理解教育への取り組みを学びたいと思い、今回県外先進地訪問として、外国語教育に力を入れている神奈川県立神奈川総合高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立千早高等学校を訪問する機会をいただいた。訪問先の先生方から伺った3校の特色と、訪問を通して感じたことを併せて報告したい。

2 訪問日程及び訪問校

平成27年3月10日（火）：訪問先1 神奈川県立神奈川総合高校

平成27年3月11日（水）：訪問先2 東京都立日比谷高校

訪問先3 東京都立千早高校

3 訪問報告

訪問先1 神奈川県立神奈川総合高等学校

（1）学校概要

「かなそう」の愛称で親しまれている神奈川総合高校は、神奈川県初の単位制普通科高校である。普通科として個性化コースと国際文化コースを設置しており、『生徒一人ひとりの個性の伸長を図り、主体的に学び、国際社会の中で共に生き共に育つ高い人格と心豊かな感性を備えた人間を育成する。』という教育目標のもと、多様な科目を開講し、自分を様々な形で表現したいという意欲の高い生徒が多く在籍している。また、神奈川県の特性を踏まえ、海外帰国生徒・在県外国人等生徒を受け入れており、一般の生徒と共に学ぶことで、国際教育を行っている。

（2）学校の特色

- ・ 90分×4限授業。
- ・ 多様な科目の中から、自分の関心や進路に合わせて授業を選択できる。（普通科の科目＋専門科目＋5つのフィールド科目（＋集中講座科目）と多様多数な科目を開設している。）
- ・ My 時間割を作成する。
- ・ テーマ学習及び研究：5つのフィールドに分かれて学習・研究に取り組む。
- ・ 研修旅行：山形県・長野県・北海道・関西・屋久島・沖縄から選択できる。

- ・ 海外交流：中国・韓国・アメリカ・イギリス・フランス・スペイン・ドイツにパートナー校があり、年に1度、いずれかの学校に訪問したり、招いたりしている。
- ・ PTA 活動が盛んである。(通称：「パートナーズ」、スローガン：「そうだ、学校へ行こう」)

(3) 外国語科について

- ・ 授業はオールイングリッシュが基本。
- ・ 第2外国語は必修。フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国語の中から選択。
- ・ 英語の能力が高い生徒も多い。(センター平均 160 点台)
- ・ 海外留学する生徒は毎年 10 名ほどである。(様々な学校や地域へ)
- ・ 海外パートナー校交流：選抜試験あり (英語のスピーキング、面接)、倍率 2 倍以上。
- ・ ワールドカフェ：年 1 回、都内の高校生 200 名程が集まり、国際問題などについて考える。
- ・ 進路については、“英語を学びたい”というよりも、“英語を使いたい”という生徒が多い。

(4) 感想

本校同様、多様な生徒が在籍していた。創立当初から制服も校則もない自由な環境の中で、自分を様々な形で表現したいという生徒が多く、どの授業の中でも生徒が自分の考えを表現する機会を多く作っているということであった。また、外国籍の生徒や海外からの留学生、海外帰国生徒も多数在籍しているため、日常生活の中で生徒たちは互いの言語や文化に触れる機会も多いようであった。

訪問当日は、自由選択科目（フィールド科目）の中で生徒たちが学んだことを発表する「フィールド発表会」が行われていた。発表の様子から、生徒の探究心の強さと表現力の高さを感じ、生徒自身が学びたいものを見つけ、主体的に学んでいくことの面白さを感じることができた。本校同様、生徒がそれぞれの夢の実現のために日々学習している様子を想像することができた。

写真①



写真②



写真③



写真④



- ① パートナー交流報告 (外国語科職員室前に多数掲示)
- ② 「パートナーズ」による作品 (学校内に多数設置)
- ③ フィールド発表会 (作品展示)
- ④ フィールド発表会 (舞台発表)

訪問先2 東京都立日比谷高等学校

(1) 学校概要

明治11年(1878年)に東京府第一中学として設立。昭和25年(1950年)に日比谷高校に名称が変わり、男女共学の新制高校として現在に至る、伝統ある普通科高校である。『知の日比谷』を、目指す学校像のスローガンに掲げ、文武両道の理念、良き伝統及び自主・自律の校風を継承・発展させ、生徒一人一人のもつ個性や能力の十分な伸長を図り、グローバル社会の中で21世紀を逞しく切り開くリーダーを育てることを目指している。平成13年9月～進学指導重点校、平成24年度～SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校として認定され、更に成果を伸ばしている学校である。

(2) 学校の特徴

- ・ 文武両道を目指す。(部活動加入率95%)
- ・ 45分×7限授業(2時間続きの90分/100分授業もあり)、8・9限目に特別講座演習や自由選択科目(第2外国語や受験科目)を受講できる。
- ・ 土曜授業や長期休業期間の講習の充実。(自主的に受講し、部活と両立する生徒も多い。)
- ・ シラバス(3年間用)の作成。
- ・ 『星陵セミナー』を開講。(各専門分野で活躍する卒業生によるゼミを実施、20講座ほど)
- ・ 進路決定率：国公立合格 現役45%、浪人55%(英語のセンター平均170点台)
- ・ 授業改善のための取り組みを実施。(教員同士で授業を見学し合う：専門教科1回、他教科1回)

(3) 外国語科について

- ・ 多読、速読、単語の習得に力を入れている。
- ・ JETプログラムにより、授業内容をALTと共に学ぶ。
※英語力とコミュニケーション能力を連携させて伸ばしていくことが、継続課題と話されていた。
- ・ 英英辞書を用いて、単語及び内容理解を図る。
- ・ TOEIC - Bridge, G - TECを受験(全員・年1回)する。
- ・ 第2外国語の講座を開講。(2年次のみ選択可：ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語)



<授業の様子>

1年生の「コミュニケーション英語Ⅰ」

- ・ ALTとの授業
- ・ 基本はオールイングリッシュ
- ・ 海外のニュースの映像を見ながら内容を理解し、利点と問題点について意見交換をする。
内容 デザイナーバイビー
- ・ 視聴覚設備が各教室に充実している。

英語力、単語力のある生徒もあり、海外ニュースの映像を見ながら大半の生徒は内容を理解しているように感じた。グループ活動では、内容について英語で意見交換したり、意見を英文でまとめたりしており、発表も含め、授業の中で積極的に英語を使おうという雰囲気を感じた。

(4) 感想

永田町という土地柄と 130 年を越える長い歴史の中で受け継がれてきた「自主・自律の精神」という校風が、校舎や校内の雰囲気からも強く感じられ、緊張感を帯びていた。都立でもトップクラスの進学校ということで、生徒や先生方が高い目標を持って日々取り組んでいる様子を感じ取ることができた。

「文武両道」の理念のもと、文化祭のクラス劇は、全クラスが 1 年前から演目を企画し練習を始めているという話からも、生徒たちの意識の高さを感じた。

授業見学では、オールイングリッシュで行う授業の中で、生徒の積極的な取り組みが印象的であった。オールイングリッシュの授業については、先生方も様々な方法で実践をし、研究をしている段階であるということであったが、生徒の理解度に合わせながら、日常生活の中で触れ合うことのできる英語教材を利用して、できる限り生徒に英語を使わせることが必要だと感じた。

訪問先 3 東京都立千早高等学校

(1) 学校概要

2つの商業高校を統合し、進学型専門高校としてビジネスコミュニケーション科を設置した高校である。グローバルに激変する社会環境のなかで、自立することのできる人材の育成を目指し、基本精神として『RESPECT』を掲げ、(1) 国際理解のために使える英語を楽しく学ぶ、(2) コンピュータを駆使し、情報の発信能力を身につける、(3) 経済の仕組みを学ぶ、(4) コミュニティの大切さを学ぶこと、の4点を教育方針としている。様々な授業や活動を通して、社会とのつながりを大切にしている学校である。

(2) 学校の特色及び外国語科について

ビジネス教育と英語教育を教育の柱とし、高校～大学までを見据えた『7年間のキャリア教育』を目指している。

<ビジネス教育>

- ・ 経済の基本、会計の基本、コンピュータの基本を学習する。
- ・ 学校設定科目の「コミュニティデザイン」の授業を通して、良い社会をデザインするために何ができるかを考える。
- ・ 多数の資格取得を目指す。
- ・ ビジネス活動に取り組む。(企業訪問・体験活動・地域連携活動、フェアトレード、古着回収 (UNIQLO との連携プロジェクト) など)
- ・ 時事問題について調査研究をする。

<英語教育>

- ・ 英語授業数は都立最多である。(必修 23 単位+選択 10 単位)
- ・ 学校設定科目：ERP (多読&発表) の授業に力を入れている。

多読の3原則

「辞書は使わない」「分からない所は飛ばして読む」「つまらなくなったら止める」

読語数の記録 → 評価の対象とする。(3年間で100万語以上読んだ生徒は表彰)

発表例 1年：本の感想や紹介(物語を絵などを使いながら説明)

2年：遠足や修学旅行について

3年：社会や環境について

- ・ JET プログラム (6 人の ALT がおり、週 1～2 時間は ALT との授業がある。)
- ・ イングリッシュルームや図書室に絵本から長編物語、漫画や雑誌など 15,000 冊の英語の本を設置している。
- ・ 外部のコンテスト等へも多数参加。(プレゼン、スピーチ、レシテーション、エッセイ等)
- ・ TOEIC-Bridge, G-TEC を受験。(全員・年 1 回)
- ・ イングリッシュキャンプ (1 年生全員・英語だけを使って過ごす)
- ・ 海外大学連携プログラム (推薦入試制度、語学研修制度、奨学金制度など)



写真：イングリッシュルームと英語の在庫本

(3) 感想

英語教育とビジネス教育に重点を置いているという点に興味を持ち、千早高校の訪問を希望した。英語に関心が高い生徒が多く、イングリッシュルームで自分のレベルに合った多様な英語本を多数読み続けることで、生徒は英語に親しみ、英語力も身に付けていけることは理想的だと感じた。また英語教育・ビジネス教育のどちらにおいても実践的な活動が多いという点で、生徒は英語を使う機会や自身の考えを表現したり、様々な出来事に問題意識を持って取り組んだりする機会が多いようであった。様々な取り組みを通して、生徒同士の交流や地域・社会とのつながりが増えることは、生徒が社会に出た際に様々な場所で活躍するための良い基盤になるであろうと感じた。様々な取り組みについて、「できることをとにかくやってみるしかない」という校長先生の言葉が印象的であった。

4 おわりに

今回の学校訪問では、在県外国人や帰国子女、海外とつながる企業なども多く、日々の生活の中で外国との関わりを感じる機会が多いであろうということ、また都・県をあげて外国語教育に積極的に取り組んでいるという理由から、関東の英語教育推進校の中から3校を訪問させていただいた。3校ともそれぞれ明確な教育方針のもと、様々な取り組みに挑戦しているという印象が強かった。

特に東京都では、2020年の東京オリンピックに向けて、英語教育に対する期待がさらに高まっているようで、授業時数の増加やALTの多数配置、オールイングリッシュによる授業など更なる英語教育の推進・改善が求められているということもあり、英語科だけでなく学校をあげて国際社会で活躍できる生徒の育成に取り組む必要がある、という様子がうかがえた。

また、今回英語科の先生方との対話を通して、外国語教育に対する見方が広がった。授業の中で、生徒が英語を使う機会をどれだけ作れるか、生徒自身が英語を使う場面をどれだけ想像できるか、そして、教師の英語の技能はもちろんだが、教師自身の外国語教育・国際理解教育に対する理念と授業をどれだけリンクさせられるか。これらのことによって、生徒が英語学習をどれだけ“楽しい”と思えるかどうかが変わってくる、ということを学ぶことができた。

今回の学校訪問で、他校の取り組みを見ることができ有意義であったと同時に、外国語を学ぶ意義について、改めて自分なりに考えることもできた。今回学んだことや感じたことを、今後の授業や自身のスキルアップに生かしたい。

そして最後に、このような貴重な機会をいただけたことと、訪問を快く引き受けてくださった3校に対し感謝申し上げます。